

再び世界のスポーツウーマンが集合 来春「国際女性スポーツ会議」大阪で開催



2回目の「国際女性スポーツ会議」（主催＝朝日新聞社、後援＝(財)大阪21世紀協会、WSF Japan）の開催が決定しました。今回は、大阪地区で今年から大々的にスタートする大阪築城400年まつりの一連の企画の1つとして、来年2月、大阪商工会議所ホール

（予定）で行われます。

このニュースは、昨年12月8日付の朝日新聞大阪版朝刊社会面で報道されたので、すでにご存知の方もいらっしゃるでしょう。ここでは、記事を読まれなかった方のために、その内容をご紹介します。

財団法人・大阪21世紀協会（松下幸之助会長）は7日、大阪築城400年まつりの主要企画の1つとして「国際女性スポーツ会議」を59年2月に大阪で開く、と発表した。世界のスポーツ界の女性トッププレーヤーが集まり、競技者としての苦しみ、女としてのハンディ克服法などを話し合う。

会議のテーマは「走る女の時代—女性にとってスポーツとは」で、2日間の日程を予定、初日はIOCの幹部が「女性スポーツの歴史」について基調講演。続いて世界の女性スポーツの現状などについて報告がある。2日目は一流プレーヤーが「スポーツが私に与えてくれたもの」という題で記念講演し、これを受けて「女性スポーツの可能性」を各国の選手らが話し合う。日本でもおなじみのテニス、マラソン、陸上、体操のプレーヤーが出席する予定だ。（以下略）

第1回国際女性スポーツ会議が開かれたのは、3年前の1980年10月9日でした。「女性スポーツは今…」というテーマで、世界から集まった7人の女性が、それぞれのスポーツに対する取り組み方や考え方などを披露し、ディスカッションをしました。

あの当時とくらべ、日本の女性スポーツは表面的には大きく前進しています。しかし、スポーツに対する認識の点からいえば、はなはだ疑問です。本質を忘れたスポーツは、ファッションにしかすぎません。服装なら着替えることで事は処理できますが、スポーツは方法を誤ればケガにつながります。下手をすると命まで落としかねません。それがこわいのです。

WSF Japanは、今回の「国際女性スポーツ会議」の後援団体になっています。会員には優先的に会議に参加できるという特典があります。これを機に、会員の輪をさらに広げていきたいと思っています。そして、その時までには、世界のトップ女性からのメッセージを十分に理解できる意識的レベルに到達してたいものです。

Letter from Women's Sports Foundation

Executive Director
Eva Auchincloss

We are excited to hear that you have started nonprofit organization to promote women's sports. We know how difficult it is to get financial and public support so we certainly sympathize with your situation. We have two major sources of financial support which are working for us. One is from corporations and the other is our annual fundraising event which is a beautiful party with lots of athletes and celebrities both male and female. You'll be glad to hear there is a group in Canada that is also getting under way. Before long we'll have a real international network.

女性スポーツの振興を目指す非営利の組織がスタートしたとうかがい、私たちはとても嬉しく思っています。財政的な面で、また、公的な面でも援助を得るのは大変なことでしょう。私たちの場合は、大きな財源が2つあります。1つは企業からの援助、残る1つは

年に1回、男女の一流選手や有名人を招待しての盛大なパーティーの開催です。カナダにも女性スポーツのグループができました。近い将来、真の国際組織としたいものです。

事務局長
エバ・オーチンクロス